


## 特集 02 仲間と楽しく「見守り活動」 ～ 子どもたちとの触れ合いが活力源 ～

取材・文：市民ライター 藤田 佐恵子

日々、小学生の登下校時の安全を支える東山田四丁目町内会（会長 越口 恵美 氏）の見守り隊。活動の中心は、横断歩道での安全確保です。



**東山田四丁目町内会  
塚越 竹四郎 さん**

平成22年に定年退職。その2年後に東山田四丁目町内会長を2年間務めた。これを皮切りに、塚越さんの地域活動は、どんどんと幅を広げていく。お話をお伺いするうちに、活動の基盤にあるのは、どうやら「子どもたちとの触れ合い」と「健康」だということが見えてきた。

### 「横断中」の黄色い旗が 登下校の子どもたちを守る

塚越さん的一天は朝7時のラジオ体操で始まる。このラジオ体操も、塚越さんが旗振り役となって始まった。55名の仲間と体をほぐし、そのまま子どもたちの見守り活動へと向かう。今の見守り隊のメンバーも、このラジオ体操でスカウトした。毎日7時30分から8時10分、時間に余裕があるときには午後の下校時にも活動を行っている。



見守り隊のおかげで、子どもたちは安心して登下校できる

塚越さんが担当しているのは、東山田あさやけ公園近くの交差点だ。信号がないわりに交通量が多い。見守り隊の持つ「横断中」と書かれた黄色い旗で、先を急ぐ車も一時停止し、子どもたちに道を譲る。

「見守り」という言葉からは、具体的なイメージがわきにくいかもしれないが、道を渡る際の安全確保や子どもたちへの声かけなど、塚越隊長率いる山田小学校の見守り隊11名は、毎日、路上で子どもたちの安全をしっかりと支えている。



見守り隊の活動風景

### 75年にもわたる 恩師とのつながりが根底に

塚越さんは、小学校1年生のときの担任の先生と、先生が亡くなられるまで75年にもわたり交流を続けてこられた。「先生にはとても大事にしてもらった記憶があり、見守り活動には、先生への恩返しの気持ちもあります。先生に与えていただいたものを、今度は私が、子どもたちに返していく番だと考えています」と恩師への思いを打ち明けてくれた。

子どもと触れ合うことが好きで、「子ども昔遊び支援クラブ」の会長もされている塚越さんのお話からは、自分のできることは何でもしてあげたいという地域の子どもたちを思う気持ちがはしばしから感じられた。



見守り隊の旗も制服も板についている塚越さん

### メリットいっぱい見守り活動

「実は、見守り活動には、いろいろと特典があるんですよ」と塚越さんは楽しそうに教えてくれた。ひとつは健康維持。見守り活動は、毎日の



いつも一緒に活動されている見守り隊の皆さん

ことなので、規則正しい生活リズムを保つのに役立つ。また、元気いっぱい子どもたちと触れ合うことで、活力を分けてもらえるし、子どもたちの成長を見守ることは自身の喜びにもなる。高齢者にうってつけの活動だと塚越さんは語る。

塚越さんの今の悩みは、隊員が不足していることだ。東山田には、山田小学校と東山田小学校の2つの小学校があるが、見守り隊はそれぞれ11名と13名。総勢700名の子どもたちを守るには十分とはいえない。塚越さんは、ルールブックの整備にも取り組んでおり、初めての方でも活動に参加しやすい環境づくりに力を入れている。

子どもたちの安全はもとより、健康にもつながる見守り活動。取材時に集まってくださった見守り隊の皆さんが和気あいあいとお話されている様子も印象的だった。見守り活動は、メンバーと毎日顔を合わせることで、自然と仲間づくりの場にもなる。地域に貢献したい、地域での生活をさらに充実させたいと考えている方は、この見守り活動から始めてみてはどうだろう。